

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間: 2008年10月中旬から11月下旬までの旬別
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業: さんま棒受網漁業
 対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: ゆるやかに減少し、10月中旬は中位水準、10月下旬以降は低位水準となる。11月上旬にはほぼ終漁となる。
- (2) 漁場: 10月中旬は、落石～釧路沖と襟裳岬沖に漁場ができる。10月下旬は落石沖での漁場形成が散発的となり、釧路～襟裳岬沖が漁場となる。11月上旬は襟裳岬沖でも散発的となり、終漁する。

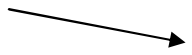
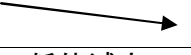
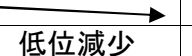

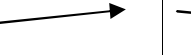

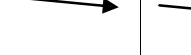

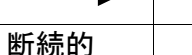
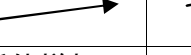
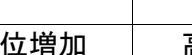

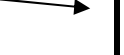
2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 10月中旬は中位水準、10月下旬は高位水準へ増加する。11月上旬以降はゆるやかに減少し、11月中旬～下旬は中位水準となる。
- (2) 漁場: 10月中旬は三陸北部が主漁場となるが、三陸南部でも散発的に漁場ができる。10月下旬には三陸南部の漁場も持続する。11月中旬以降は、久慈～八戸沖の漁場は消滅し、宮古～金華山沖が漁場となる。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 10月中旬には、断続的ながら来遊量がある。来遊量は徐々に増加し、11月上旬には中位水準、11月中旬には高位水準となる。11月下旬は、高位水準ながらも減少を始める。
- (2) 漁場: 10月中旬は、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される。来遊が本格化する10月下旬は、常磐北部が主漁場となり、11月上旬には常磐南部まで漁場が広がる。

2. 予測の概要

海 域		10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位低下	低位減少	低位減少		
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖	襟裳岬沖		
三陸海域	来遊量					
	動向	中位増加	高位水準	高位減少	中位減少	中位減少
	漁 場	北部～南部	北部～南部	北部～南部	宮古～金華山沖	宮古～金華山沖
常磐海域	来遊量					
	動向	断続的	低位増加	中位増加	高位増加	高位減少
	漁 場	北部	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部

3. 漁況の経過概要

(9月下旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年を下回ったものの、前旬を上回り、高位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期後半にかけて徐々に来遊量が増加した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石～厚岸沖、襟裳岬沖であった。

落石南東～厚岸大黒島南の 10～60 海里付近(表面水温 13～17℃)。期前半は落石沖が主漁場であったが、27 日夜以降、漁場が霧多布沖～厚岸大黒島沖まで広がった。連日小型船主体で大型船も数隻～30 隻程度操業。小型船は満船となる船が、大型船は 70～100トン以上漁獲する船が多かった。濃い大群が多かった。

襟裳岬東～南東の 30～70 海里付近(表面水温 13～18℃)。連日大型船が数隻～35 隻程度操業。80～100トン以上漁獲する船が多かった。

(3) 魚体

29～30cm モードの大型魚が主体。中型以下の魚の混じり具合は、0.1～1.5 割程度。体重 140～150g 台が主体。